

伝統的表記の例

よしや

恨む比謝橋や

わぬ渡さともて

情ないぬ人の

かけておきやら

沖縄文字を用いた現代的表記

ゆしや

恨む比謝橋うらむ ひしゃばしや

わぬ渡わたさともて

情なさきないぬ人ひびとの

かきおきぢやら

読み音は上段下段同じです。

上段は音が八八八六ですが、文字は必ずしも八八八六になっていません。言文不一致です。

本稿は、伝統的な書き方を否定して現代的な書き方に改めようとするものではありません。伝統的な書き方を尊重の上、現代的な書き方を並記したものです。

歌の二行目と三行目が入れ替わっているものがあります。

詠み人について

諸文献を参考に「よしや」としました。本来は、詠み人が詠んだ時点で、自ら名乗る名が最善ですが、それは分かりません。

「吉屋思鶴」と書かれた文献もありますが、これは本人が名乗る名ではないように思います。この他にもありますが、後世の人が呼んだ名のようにです。

また、よしやが比謝橋を渡ったのは八\*

下段では仮名の通りに読みます。

下段は音、文字とも八八八六となっていてます。(小書き文字を除く)言文一致です。下段の文字遣いに著作権はありません。

左の沖縄文字の読み音の表し方は、沖縄語辞典(国立国語研究所編)によります。

と = tu  
て = ti  
ふ = hwi

\*歳の時だそうですが、この歌が八歳の子供の歌とは信じ難く、何年か後に、橋を渡ったときのことを思い出して詠んだものかも知れません。